

図画工作科における授業改善評価シートの開発

尾崎 公彦*1 中村 俊介*2

要 旨

新しい小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月 31 日告示）においては、図画工作科で育成を目指す資質・能力は、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の 3 つの柱を軸として具体的に設定された。各教科等においてもどのような資質・能力の育成を目指すのかが明確化された。評価においても「子供たちにどのような力が身に付いたか」という学習成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの指導改善や学習改善を図る、いわゆる「指導と評価の一体化」が求められている。こうした視点から筆者が実践した「廃材を利用した工作の教材」を基に、全ての児童にとって、図画工作科の目標を楽しく達成し、授業改善や授業の振り返りの視点を持ち、主体的・対話的で深い学びに有効な、ずがこうさくノートの開発を目的とする。

Keywords : 図画工作, 指導法, 授業評価シート, 廃材を利用した工作の教材
arts and crafts, instruction method, class evaluation sheet, teaching materials for crafts using scrap material

1. 問題

現在の小学校現場において、美術科専科の教員を設置しているのは一部の地域であり、多くの小学校では学級担任が算数・国語・理科・社会など含めて図画工作を教えているのが現状であろう。中には図画工作科の指導に苦手意識を抱いている教員がいることは想像に難くない。降旗（p91）は、教職経験豊富なベテランでも図画工作やその指導に対して苦手意識を抱いている教師は少なくないこと。そして、それらの教師は、図画工作に対して固有のイメージや教育観を抱いており、無意識な内に教師と同じ苦手意識をクラスの児童たちにも植え付けてしまう可能性がある」と指摘している。他の教科の準備や学級運営などで、十分な図画工作科の教材研究の時間が確保できない等、様々な課題が想定される。また、井ノ口は、図画工作の学びを「作品（絵）を上手につくら（描か）せることとする」図工観からの転換がなされない限り、無自覚のまま図工嫌いの子どもを生み出してしまう負の連鎖が生じてしまう」と指摘している。こうした現状において、新しい小学校学習指導要領では、図画工作科で育成を目指す資質・能力、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の 3 つの柱を軸として具体的に設定された。「子供たちにどのような力が身に付いたか」という学習成果を的確に捉えて、主体的・対話的で深い学びの視点から指導改善や学習改善を図る「指導と評価の一体化」が求められている。

図画工作科を担当する教師には、「作品（絵）を上手につくら（描か）せる」と言った作品主義の図工観から脱却し、作品づくりの過程において一人一人の児童が主体的に取り組

*1 川崎医療福祉大学 医療福祉学部 子ども医療福祉学科

*2 川崎医療福祉大学 医療福祉マネジメント学部 医療福祉デザイン学科

み、試行錯誤することを通じて、学んでいることを理解することが求められている。筆者が実践した「廃材を利用した工作の教材」をもとに作品づくりの過程において児童の思いや頑張りに寄り添い、励ますことができ、図画工作科の本来の目標を達成し、授業改善や授業の振り返りの視点を持ち、主体的・対話的で深い学びに有効な、ずがこうさくノートの開発を試みる。

2. 方法

筆者が実践している児童発達支援センターでのアート活動の事例を基に、インクルーシブ教育を前提に「廃材を利用した工作教材」を小学校第1学年及び第2学年を対象とした授業計画を設定する。その授業内容を児童一人一人が、「知識・技能」・「思考・判断・表現」・「主体的に学習に取り組む態度」の観点から考察できる授業評価シートを開発し、図画工作科の学習過程において、授業改善や授業の振り返りの視点を持ち、主体的に楽しく伸び伸びと活動できるように必要な評価方法及び指導法を考察する。

2.1 授業計画 指導と評価

対象学年：小学校第1学年及び第2学年

内容：「廃材を利用した自分を讃えるトロフィーづくり」

目標：材料や素材から自分のイメージを色や形で表現し、制作過程で新しい気づきや発見を通じて表したいことを見つけ、どのように表すかについて考える。

材料・用具：紙筒、発泡スチロール球（各種）、色画用紙（各色）、紙テープ（各色）、毛糸（各色）、マスキングテープ（各種）、シール（各色）、テープ芯材（各種）、はさみ、のり、セロハンテープ、クレヨン、パス

授業時間：6時間

評価規準：

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> 自分の感覚や行為を通して、形や色などの組み合わせによる感じが分かっている。 材料やはさみを適切に扱うと共に、接着剤などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 	<ul style="list-style-type: none"> 形や色などの組み合わせによる感じを基に、自分のイメージを持ちながら、紙を切ったり、他の材料と組み合わせで感じたことや想像したことから、表したいことを見つけ、形や色などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。 形や色などの組み合わせによる感じを基に、自分のイメージを持ちながら、自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、表したいこと、表し方などについて考え、自分の見方や感じ方を広げている。 	<ul style="list-style-type: none"> つくりだす喜びを味わい、進んで材料を組み合わせで立体に表したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

本教材は、以下に示す図画工作科の第1学年及び第2学年小学校学習指導要領図画工作

科の目標及び絵や立体，工作に表す活動に基づいた活動である．特に小学校学習指導要領（平成 29 年 3 月 31 日告示）解説図画工作編³⁾の第 1 年及び第 2 学年の目標（2）「造形的な面白さや楽しさ，表したいこと，表し方などについて考え，楽しく発想や構想したり，身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする．」（p.35）に基づいている．また，内容の「A 表現」（1）イ「絵や立体，工作に表す活動を通して，感じたこと，想像したことから，表したいことを見付けることや，好きな形や色を選んだり，いろいろな形や色を考えたりしながら，どのように表すかについて考えること．」（p.38）や「A 表現」（2）イ「絵や立体，工作に表す活動を通して，身近で扱いやすい材料や用具に慣れるとともに，手や体全体の感覚などを働かせ，表したいことを基に表し方を工夫して表すこと．」（p.43）[共通事項]（1）ア「自分の感覚や行為を通して，形や色などに気付くこと．」（p.53）（1）イ「形や色などを基に，自分のイメージを持つこと．」（p.53）に重点をおいている．

授業計画 指導と評価（6 時間） 廃材を利用した自分を讃えるトロフィーづくり！

時間 過程	ねらい・主な学習活動	評価の観点 評価方法等	想定される評価の実際
導入 (45分)	自分を讃えるトロフィーづくり！ ・題材と材料から，発想や構想する． ・一本の紙筒に，描いたり身近な素材の組み合わせ方を試したり，見つける．	[知] 観察 対話 作品 [思] 発想・構想	 「知識」の視点から，参考作品を通じて，材料からのイメージ展開や，形や色について考えていることをつぶやきや観察から，理解する．「思考力・判断力・表現」の視点で，表したいことを見つけている様子を観察する．
制作 1 (90分)	作ってみよう！ トロフィーからイメージしたことを基に紙筒でどのように表すかを考える． ずがこうさくノートにがんばったこと 次がんばることを書く．	[思] 発想・構想 [知] 観察 対話 作品 [技] 観察 対話 作品	 「思考・判断・表現（発想・構想）」の視点で，材料の加工の仕方や形や色の組み合わせを試しながら，表したいことを見つけられているか観察する． 児童への質問や友達との会話や作品を見て，イメージを展開できているか観察する． 「知識」と「技能」の視点で，材料の加工の仕方や形や色の組み合わせに着目し，工夫して取り組んでいるか観察する． ずがこうさくノートから一人一人児童の思いを理解し，次回の個別対応に備える．

<p>制作</p> <p>2</p> <p>(90分)</p>	<p>作ってみよう！</p> <p>材料からもイメージを展開させ、創意工夫して創造的に表現を試みる。</p> <p>ずがこうさくノートに振り返りを書く。</p>	<p>知</p> <p>観察 対話 作品</p> <p>技</p> <p>観察 対話 作品</p>	 <p>「知識」と「技能」の視点で、材料からイメージを展開。材料や用具を適切に扱い、一人一人の表したいことに合わせて表し方の工夫に取り組んでいるか観察する。</p> <p>ずがこうさくノートに振り返りから、がんばったところを把握する。</p>
<p>鑑賞</p> <p>(45分)</p>	<p>鑑賞会</p> <p>完成作品を相互鑑賞。題材の制作意図を文章で表す。</p> <p>友達の作品を鑑賞して、感じたことや考えたことを文章で表現し伝え合い、自分の見方や感じ方を広げる。</p>	<p>思</p> <p>鑑賞 観察 対話 ずがこうさくノート</p> <p>態</p> <p>鑑賞 観察 対話</p>	 <p>「思考力・判断力・表現(鑑賞)」の視点で、作品を鑑賞する姿を観察する。作り出す喜びを味わい、友達の作品から良さや美しさを感じとり、考え、自分の見方や感じ方を深める大切さを指導。完成までの頑張りや工夫した点を評価シートに記入。また、見るだけではなく触ったり持ったりすることで、触って感じ取ったり考えたりすることの重要性を伝える配慮を行う。</p>

2.2 指導と評価から配慮事項

小学校第1学年及び第2学年の図画工作科の学びは、楽しく取り組むことが望ましい。そのためには、教師は、児童一人一人の状況を理解し、適切な支援や言葉掛けを行う必要がある。児童一人一人の頑張りや、思いを汲み取ることは、図画工作の指導に不安を抱いている教師にとっても、個別対応に有益な準備となる。また、教師自らが教材研究を通じて、図画工作を楽しみ、作る喜びや工夫する楽しさを十分に味わい、次への意欲を持つことが大切である。

「廃材を利用した自分を讃えるトロフィーづくり」から図画工作科の授業における配慮事項は以下のことが考えられる。

図画工作科を担当する教員は次の事を念頭に置いて授業に取り組むことが望ましい。

1. 書き方や算数の授業とは異なり、図画工作科の授業は、一人一人の想像的解釈で行われるため唯一の正解はないということを教師が理解している。
2. 図画工作科の授業成果は、全員が違うものを制作することにある。制作過程において全ての児童が主体的に取り組むためには、過度な支援は想像的解釈の妨げになる。自由に伸び伸びと取り組める環境を担保し、その上で必要最低限の支援をする。

3. 絵を描いたり工作をしたり，造形遊びを通じて，図画工作の資質・能力を支える力である造形的な見方・考え方の育成がされる．作品作りの過程において，感性や想像力を働かせているか．対象や事象を形や色などの造形的な視点で捉えられているか．そして自分のイメージを持ちながら新たな意味や価値を作り出すことができているか．創造的な活動になっているのか．教師には，それを引き出す教育力が求められる．
4. 一人一人の児童の制作活動を見極め，どの程度関わるべきか，どの程度指示をするのか，どれだけ手助けするのか，どこに焦点を当てるのか，など個別対応ができる教師の能力や，図画工作科の専門的知識や実践力が求められる．
5. 障害のある児童に対しての支援についても，教師自身が自閉症スペクトラム症について理解を深め，本人や家族を交えて合理的配慮について共通理解を持つこと．

3. ずがこうさくノートの活用

前述の配慮事項を踏まえ，児童の思いや頑張りを確認でき，授業改善や授業の振り返りの視点を持つ，ずがこうさくノートを開発する．児童が自らの学びを評価するにあたって，図画工作科で育成を目指す資質・能力，「知識及び技能」，「思考力・判断力・表現力等」，「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱を基に項目を設定し，児童の思いや頑張りを目視化する．大きさはA3 (420×297mm)，二つ折りのA4 (297×210mm) でファイルすることを想定している．

1. 「知識・技能」：何を理解し，何ができるようになったのか（以下知・技と記す）．
2. 「思考・判断・表現」：理解していることを・できることをどう使うか（以下思・判・表と記す）．
3. 「主体的に学習に取り組む態度」：主体的に関わる豊かな心を培う（以下主と記す）．

この3つは観点別学習状況の評価の観点であり，教師が児童の学習状況を分析的に捉えることができる．また観点別学習状況の評価では示しきれない，児童一人一人の良い点や可能性，進捗状況について評価する個人内評価の視点も取り入れ評価シートを開発する．

対象児童が第1学年及び第2学年であることから，楽しく遊びの要素を取り入れ，個人内評価の視点として，「がんばったこと つぎにがんばること」に設定し，そこから児童一人一人の思いを言語化する．毎回授業終了前に書くことによって，児童自身も授業の振り返りと次回への展望を持つことが期待できる．必ず，教師はその思いに対して，リアクションをつけて次回授業時に返却する．振り返りの質問項目は，「タイトル（思・判・表）」，「つくることがたのしめたか（主）」，「くふうしたところ（思・判・表・知・技）」，「じぶんやともだちのさくひんのよいところをみつけられたか（知・技）」，個人内評価の観点として「かんせいまでいちばんがんばったこと」の5項目を設定し，図画工作科で育成を目指す資質・能

力、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力など」、「学びに向かう力・人間性など」の3つの柱の視点を取り入れた。この振り返り項目は、鑑賞の際に、作品カードとしても機能する。

児童一人一人の思いや頑張りを理解し、図画工作科の学びはその過程にあることを再認識することができる、ずがこうさくノートを目指して開発した。ずがこうさくノート(図1)は以下の通りである。

図1 ずがこうさくノート

児童は、毎回授業終了前に、ずがこうさくノートに「がんばったこと」や「つぎにがんばること」を記入し提出する。教師はそれから一人一人の児童の制作活動を見極め、どの程度関わるべきか、どの程度指示をするのか、どれだけ手助けするのか、どこに焦点を当てるのか、など個別対応への備えを行う。どのような教材においても、児童は材料を通じて、児童なりに上手くできるか、どうなるだろうと不安を抱え自分の制作について考え取り組んでいる。そして、児童が何を学習し、何を経験したかは、制作した後で作品を通じて見極めることができる。しかし、それを待っていては、制作過程で躓いた児童は、面白くないまま図画工作科の授業を終えてしまう。そうしたことを避けるためにも、ずがこうさくノートを活用し、児童一人一人の思いを授業毎に理解し、適切な支援を行わなければならない。全ての児童が主体的に取り組むためには、過度な支援や放置は、想像的解釈の妨げになるとも考えられる。教

材内容を理解し、自由に伸び伸びと取り組める環境を担保しなければならない。

また、降旗は（p106）多くの教師は、図画工作は、うまく上手に作品を完成させなければならないという狭い教育観・指導観を抱いていると指摘している。教師が指導に不安を抱えこのような教育観・指導観を抱いては、せつかくの教材もその魅力が半減する。評価シートの活用は、児童一人一人の頑張りや思いを確認し、主体的に取り組むように支援する手立てとなるであろう。指導に苦手意識を持つ教師も、児童の思いを理解することで、授業時の個別指導へ見通しを持って取り組むことが期待でき、授業改善や授業の振り返りの視点を持ち、図画工作科の授業の指導の不安を軽減に寄与できると考える。

4. 考察・まとめ

本研究では、全ての児童にとって、図画工作科の目標を楽しく達成し、授業改善や授業の振り返りの視点を持ち、主体的・対話的で深い学びに有効な評価方法及び指導法の開発を目的としてきた。図画工作科で育成を目指す資質・能力は、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力など」、「学びに向かう力・人間性など」の3つの柱を評価の観点とし、ずがこうさくノートを作成した。「児童たちにどのような力が身に付いたか」という学習成果を的確に捉え、主体的・対話的で深い学びの視点からの指導改善や学習改善を図るために、ずがこうさくノートの活用が想定される。

また、創造的な活動になっているのか。一人一人の児童の制作活動を見極め、どの程度関わるべきか、どの程度指示をするのか、どれだけ手助けするのか、どこに焦点を当てるのか、など個別対応ができる教師の能力を補充することも期待できる。

多くの教師が抱く図画工作の指導に対する不安を軽減し、上手に作品を完成させなければならないという狭い教育観・指導観を少しでも払拭するために、児童がどんな思いを持って取り組んでいるのかを理解することは重要である。図画工作科の学びは上手に作品をつくることではなく、題材に対して、自ら仮説を立て、材料や用具を利用し自分のイメージを存在させることで、仮説を検証し、また新たな問いを生み出すところにある。図画工作科の学びは本来、主体的で対話的で深い学びを経験できるものである。そうした学びを通して豊かな情操が培われるのである。美術教育・造形教育に関わる教師は、その旨を理解し、授業に取り組むべきである。また、評価の規準が明確化され、指導と評価の一本化が求められているが、児童一人一人をしっかりと観察し理解することが大前提になるのではないだろうか。ずがこうさくノートの活用が、児童一人一人を理解し、主体的で対話的で深い学びを提供する一助になり、図画工作科の目標を楽しく達成し、授業改善や授業の振り返りの視点を持ち、造形的な見方や考え方の陶冶に寄与することを期待したい。

引用文献

- 1) 降旗 孝：小学校・図画工作を指導している教師の意識と実態—山形県・教員免許状更新講習から—，山形大学紀要（教育科学），第15巻 第2号，91-107，2011
- 2) 井ノ口和子：図画工作科における〈指導と評価〉の考察—図工観の転換に向けて—，大学美術教育学会「美術教育学研究」第49号，57-64，2017
文部科学省，小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図学工作編，四版，日本文教出版，大阪，2021
- 3) 文部科学省，小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 図学工作編，四版，日本文教出版，大阪，2021

参考文献

日本造形教育研究会，みんなおいでよ ずがこうさく1・2上下，開隆堂出版株式会社，東京，2019

文部科学省 国立教育政策研究所，「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 WEB版 小学校 図画工作，2020

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_zugak.pdf